



「投資動向に関するアンケート」調査結果

<第8回調査>

2010年2月1日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施することになりました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるといって対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の国政選挙など、市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2010年1月20日(水)13:00～2010年1月27日(水)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『ネクスト総合口座』、『FXトレード口座』のいずれか一方、または両方に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は、6749件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

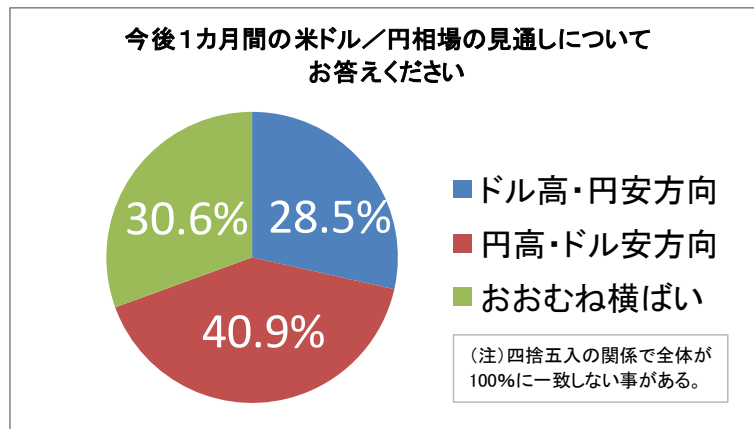
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第8回調査結果略報:ドル円予想DIは円高方向に転換】

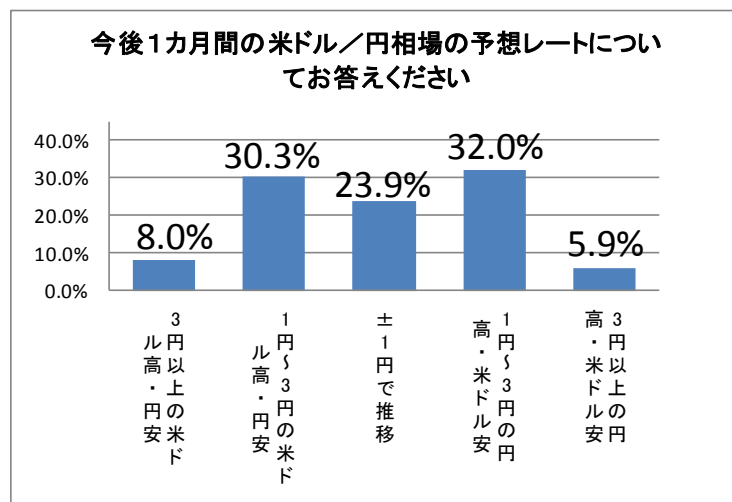
問1:今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

今後1カ月間のドル円相場見通しについては、「ドル高・円安方向」と答えた割合が28.5%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が40.9%となった。この結果、「ドル円予想DI」は▲12.4%ポイントと、前回の+6.4%ポイントから一転してドル安方向に変化した。調査期間中のドル/円相場は91円台から89円台に向けて円高基調で推移していたが、夏場以降のDIの推移をみると、8月調査がドル高、9月が円高、10月がドル高、11月が円高、12月がドル高、1月は円高と月替わりで転変している。相場観の形成に苦労している個人投資家の姿が表れている。



問2:今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

今後1カ月間のドル円相場の予想レートについては、「1円～3円程度の円高・ドル安」と答えた割合が32.0%と最も多く、「1円～3円程度のドル高・円安」が30.3%、「±1円以内」が23.9%、「3円以上のドル高」が8.0%、「3円以上の円高」が5.9%の順番になった。ヒストグラムの形状は、円安側にピークがあった先月から一転して円高側に移った格好になっており、問1の回答結果とおおむね整合的であると言える。機動的に相場見直しを入れ替えるFX投資家層の特徴が良く表れているが、ヒストグラムはM字型になっており、相場観の一方的な偏りは認められない。

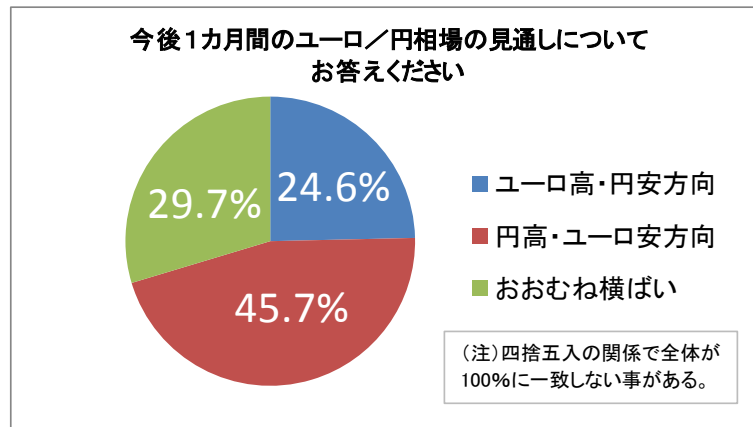


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

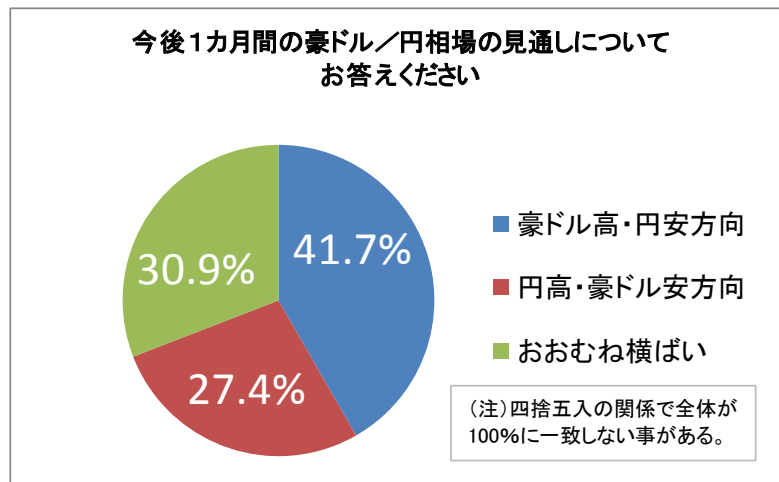
問3: 今後1か月間のユーロ／円相場の見通しについてお答えください

今後1か月間のユーロ円相場見通しについては、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が24.6%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が45.7%となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は▲21.1%ポイントと、前回調査の▲9.5%ポイントから更にユーロ弱気派が増加した。調査期間内のユーロ円相場は130円を割り込んで約9か月ぶりの125円台までユーロ安が進む展開だったが、欧州系銀行の新興国向け貸付への不安や一部のユーロ参加国の信用不安問題が長引く中で、FX投資家層のユーロ弱気派は更に増加したようである。



問4: 今後1か月間の豪ドル／円相場の見通しについてお答えください

今後1か月間の豪ドル円相場見通しについては、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が41.7%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が27.4%となった。この結果、「豪ドル円予想DI」は+14.3%ポイントと、前回調査の+17.4%ポイントから小幅ながら低下した。調査期間中の豪ドル円相場は84円台から80円台に向かって一環して下落するという展開だったが、FX投資家層の豪ドル強気超過は維持された。豪ドル強気派の割合は3か月連続で減少しているが、DIは調査開始以来常に2桁のプラスを維持しており、根強い豪ドルファンの存在が示唆されている。



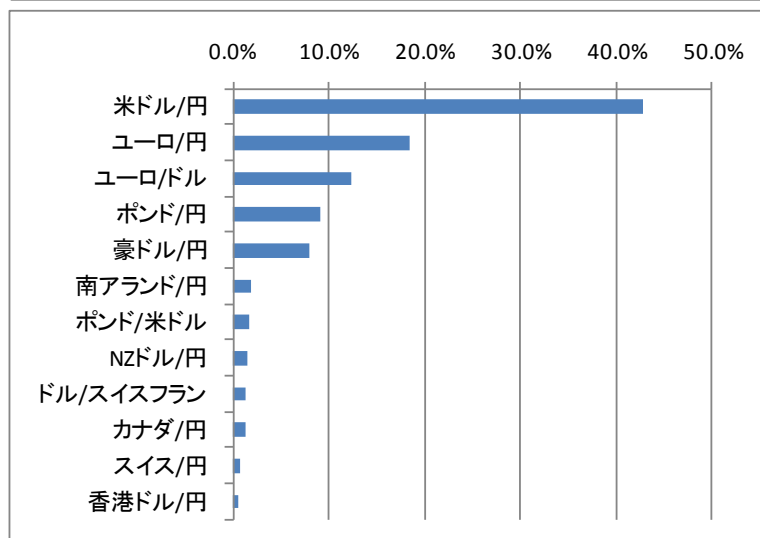
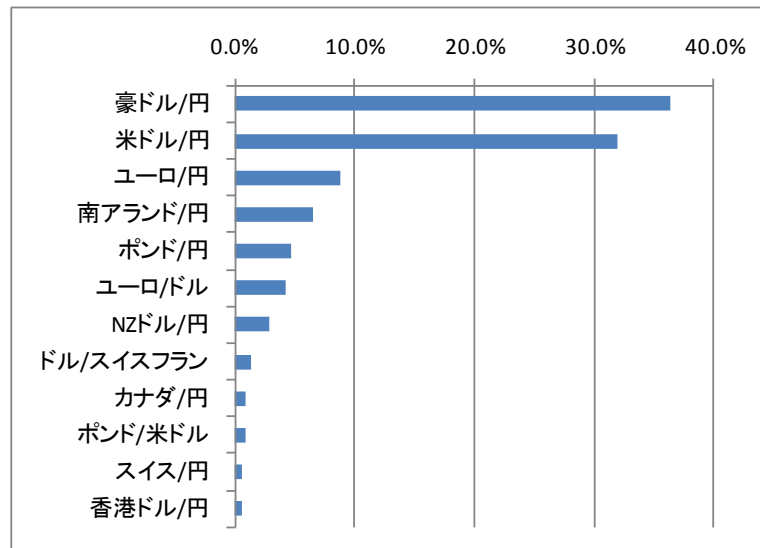
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

今後注目している通貨ペアについて尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位豪ドル円(36.3%)、2位米ドル円(32.0%)と前回と順位が交代した。以下、3位ユーロ円(8.9%)、4位南アランド円(6.5%)、5位ポンド円(4.8%)の順となっている。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位が断突で米ドル円(42.8%)となっており、以下、2位ユーロ円(18.5%)、3位ユーロドル(12.4%)、4位ポンド円(9.1%)、5位豪ドル円(8.0%)の順で続いている。

米ドル円は買いでも売りでも注目される通貨の地位を維持しており、入手可能な情報量の多さなどから、強気/弱気の相場観とは無関係の「売買の対象」として見た場合、最も人気の高い通貨になっている。一方、「買い」注目度で常に上位に位置する豪ドル円は、「売り」での注目度が相対的に低いという特徴があり、金利の高さや先高観が影響しているようだ。前回調査に引き続き、ユーロ円、ユーロドル、ポンド円などの欧州通貨の売りでの順位が比較的高い状態が続いている。根強く蒸し返される欧州系銀行の対外債権問題やギリシャ問題の影響が投影されているようだ。

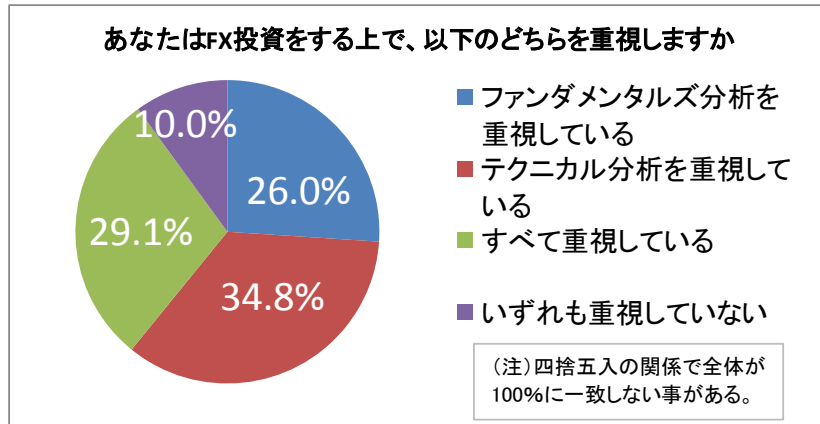


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

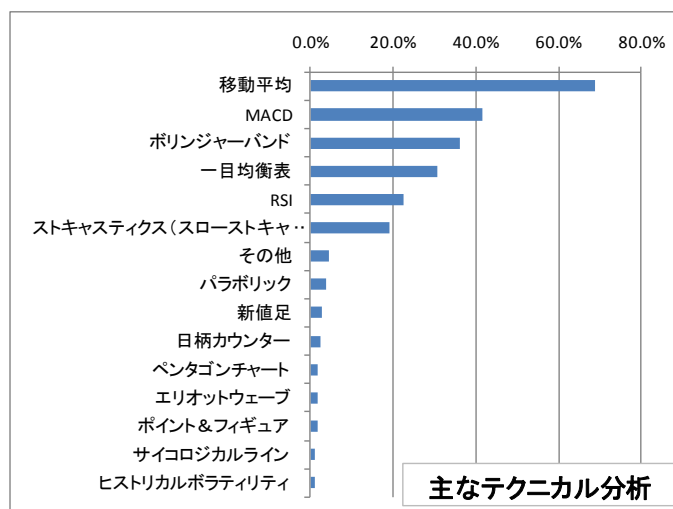
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が26.0%であったのに対し、「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が34.8%と、相変わらずテクニカル分析を重視する投資家の割合の方が高かった。「すべて重視している」との回答割合が29.1%、「どちらも重視していない」が10.0%であった。調査開始以来、回答割合に顕著な変化は生じていない。FX投資家の分析手法の好みは相場環境に左右され難いと言える。



問7: テクニカル分析では何を主に活用していますか?

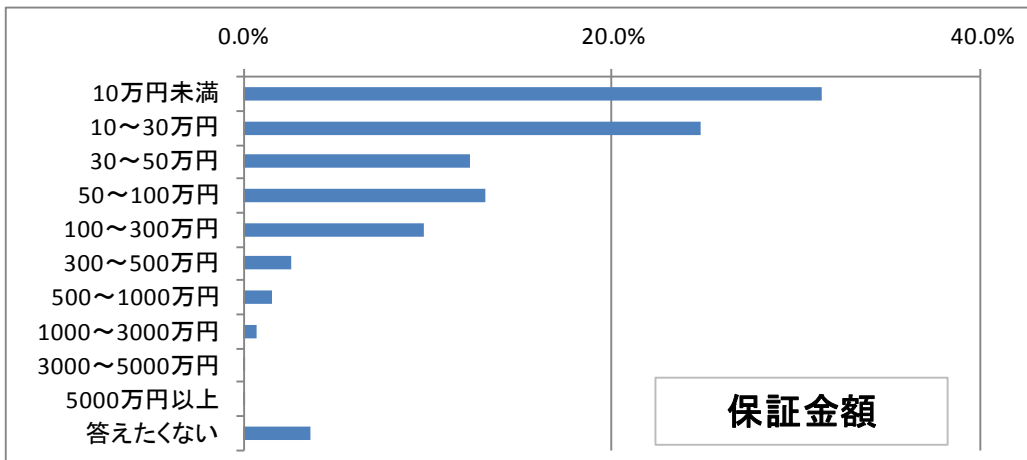
「テクニカル分析で主として活用している手法」について複数回答可として尋ねたところ、「移動平均(68.9%)」が最も高く、「MACD(41.6%)」、「ボリンジャーバンド(36.2%)」、「一目均衡表(30.6%)」、「RSI(22.4%)」、「ストキャスティクス(19.0%)」の順番で並んでいる。個人投資家に人気のテクニカル分析手法の順位はあまり変わらず、今回も一番人気は移動平均分析だった。テクニカル分析の手法を、いわゆる「トレンド系」と「逆張り系」に分けてみた場合、移動平均やMACDなどのトレンド系の人気が相対的に高い一方で、ボリンジャーバンドやRSIなどの逆張り系への注目度も高く、様々な手法を駆使して相場に臨む個人投資家の姿勢が投影されている。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

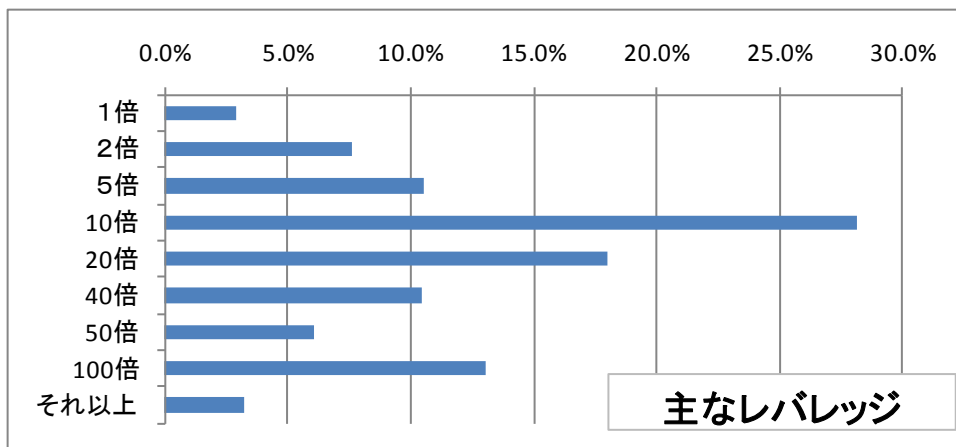
問8: FX取引の際の保証金の額についてお答えください

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、10万円未満と答えた割合(31.3%)が最も多く、10~30万円(24.8%)が2番目に多かった。回答者の過半数以上は、30万円以下に分布しているのが特徴だ。以下、30~50万円が12.3%、50~100万円が13.1%、100~300万円が9.8%、300~500万円が2.6%となっている。回答割合の順番は、一部に微妙な逆転があるものの、基本的に保証金額の大きさと反比例の関係にある。不特定多数の小口投資家に分散しているFX投資家層のすそ野の広さを再確認させる内容になっていると言える。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？

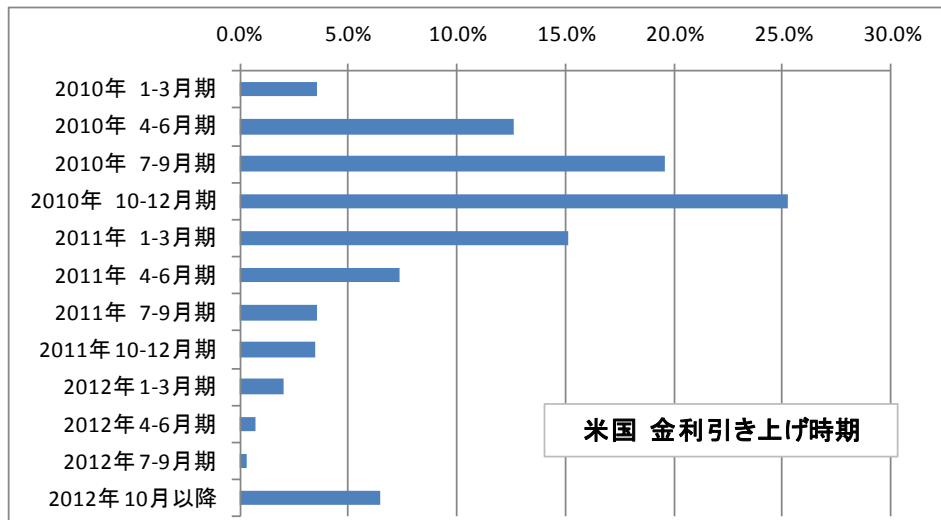
FX投資の際に主として活用しているレバレッジについて尋ねたところ、10倍と答えた割合(28.2%)が最も多く、20倍(18.0%)が2番目に多かった。これに次ぐ3位が100倍であったが、その比率は13.1%であり、「それ(100倍)以上」と答えた3.2%を合わせて16.2%であった。外国為替保証金取引について、高レバレッジの投資家層の「武勇伝」が一部の媒体で喧伝されることもあるが、今回のアンケート調査に答えた個人投資家の7割近くは20倍以下の倍率を主として活用している。上記問8の回答結果と合わせ、比較的堅実なFX取引の実態が示唆されている。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

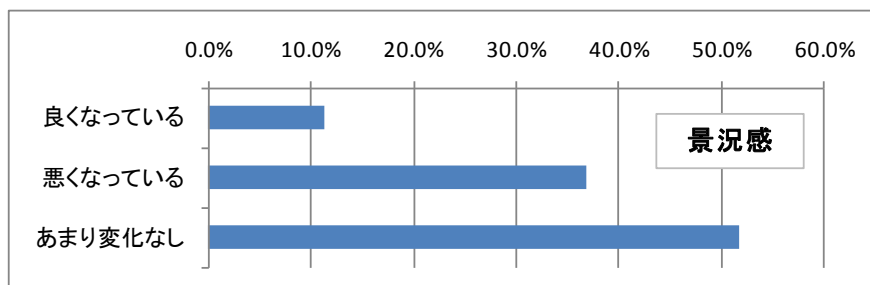
問10: 米国FRBによる政策金利引き上げの時期

今月の特別質問項目として、「米連邦準備制度理事会(FRB)による、政策金利引き上げの時期は？(ひとつだけ)またその理由と考えられる事項がありましたらお答えください」と尋ねたところ、「2010年10-12月期」が25.2%で最も多く、以下「2010年7-9月期」19.6%、「2011年1-3月期」15.1%「2010年4-6月期」12.6%の順番で並んでいる。回答者の約6割が今年中の利上げ開始をみているが、年後半以降と見る向きが多い。また、2012年以降と見ている人の割合も9.5%と1割近くあった、米国の利上げ時期の予測の背景として、回答者個々の米国景気や雇用情勢の見方を挙げる向きが多かったが、「今年11月の米国中間選挙後」を意識した回答も目立った。



問11: あなた個人の景況感はいかがですか？

今月の特別質問項目として、「あなた個人の景況感はいかがですか(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「良くなっている」と答えた割合が11.3%、「悪くなっている」が36.9%、「あまり変化なし」が51.8%という結果になった。10月調査で同じ質問をした当時と比較すると、「あまり変化なし」の回答割合は同じだが、「良くなっている」と答えた割合が14.4%から▲3.1%ポイント減少し、その分だけ「悪くなっている」と答えた割合が増えている。この結果、いわゆる景況感格差は10月調査の▲19.4%ポイントから▲25.6%ポイントへと悪化している。日銀短観などの企業を対象にした景況感調査やマクロ経済指標には景気の回復基調が認められるものの、個人投資家層の実感として波及するには至っていないのかもしれない。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第8回目となりました。前月との対比での時系列比較は徐々に可能になり始めていますが、まだ開始後1年未満ということもあり、前年同期との比較に十分な調査結果の蓄積は進んでおりません。このため、現時点では統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間の時系列比較を提示することはまだできませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「年次白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2009年	6月	21.0	35.2	-14.2	38.4	27.2	11.2	48.8	23.7	25.1
	7月	34.6	33.6	1.0	40.2	28.2	12.0	45.5	26.3	19.2
	8月	36.3	30.3	6.0	41.8	27.3	14.5	50.7	23.3	27.4
	9月	32.1	41.3	-9.2	38.0	23.5	14.5	45.1	21.1	24.0
	10月	45.5	24.7	20.8	51.1	17.4	33.7	60.5	15.4	45.1
	11月	22.9	41.8	-18.9	33.6	29.7	3.9	44.6	25.5	19.1
	12月	37.6	31.2	6.4	27.8	37.3	-9.5	41.4	24.0	17.4
2010年	1月	28.5	40.9	-12.4	24.6	45.7	-21.1	41.7	27.4	14.3
	2月									
	3月									
	4月									
	5月									
	6月									
	7月									
	8月									
	9月									
	10月									
	11月									
	12月									
	1月									
2月										
3月										

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com